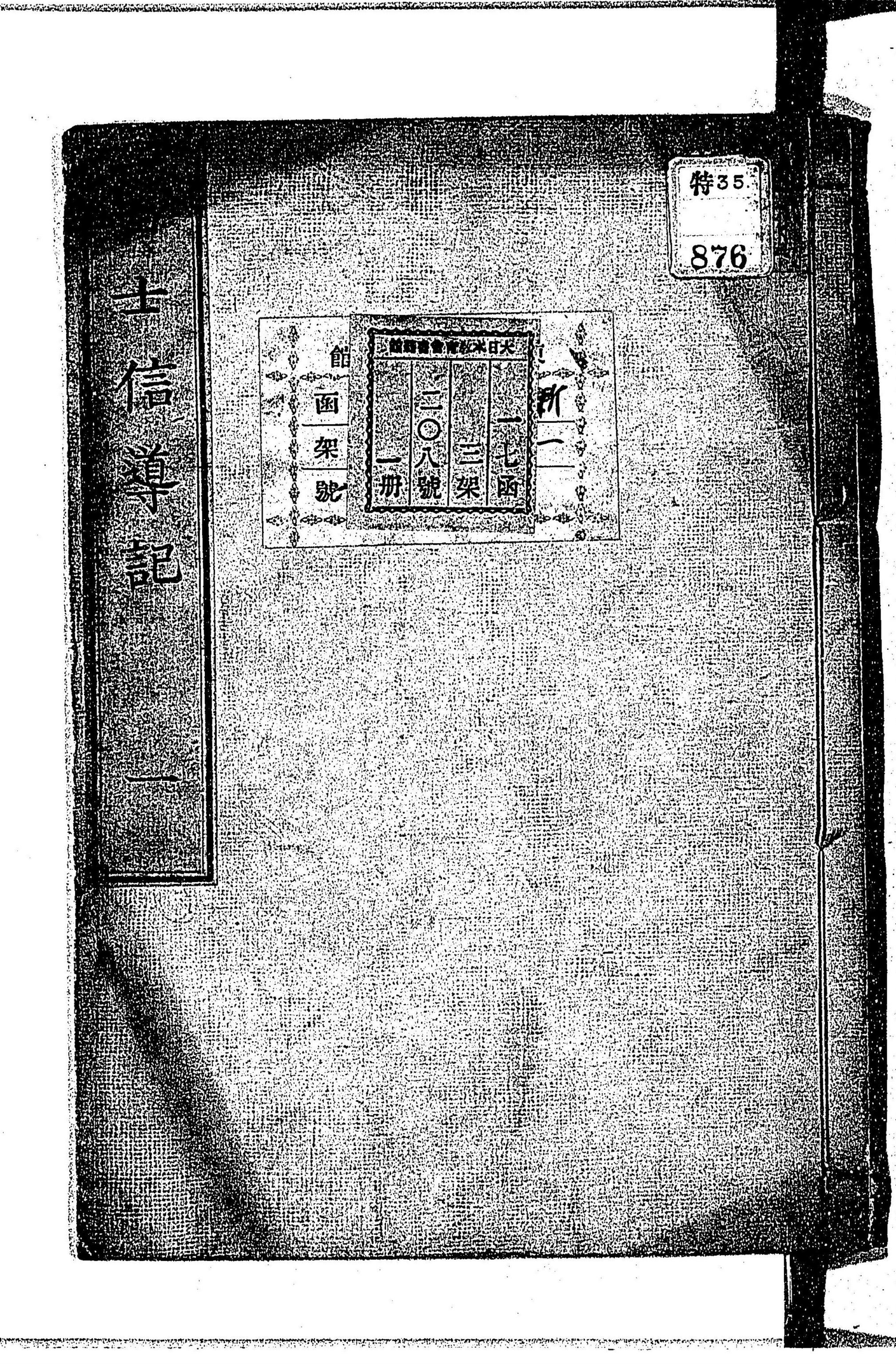


014585-000-4

特35-876

富士信導記　第1

宍野　半之進／著

M10

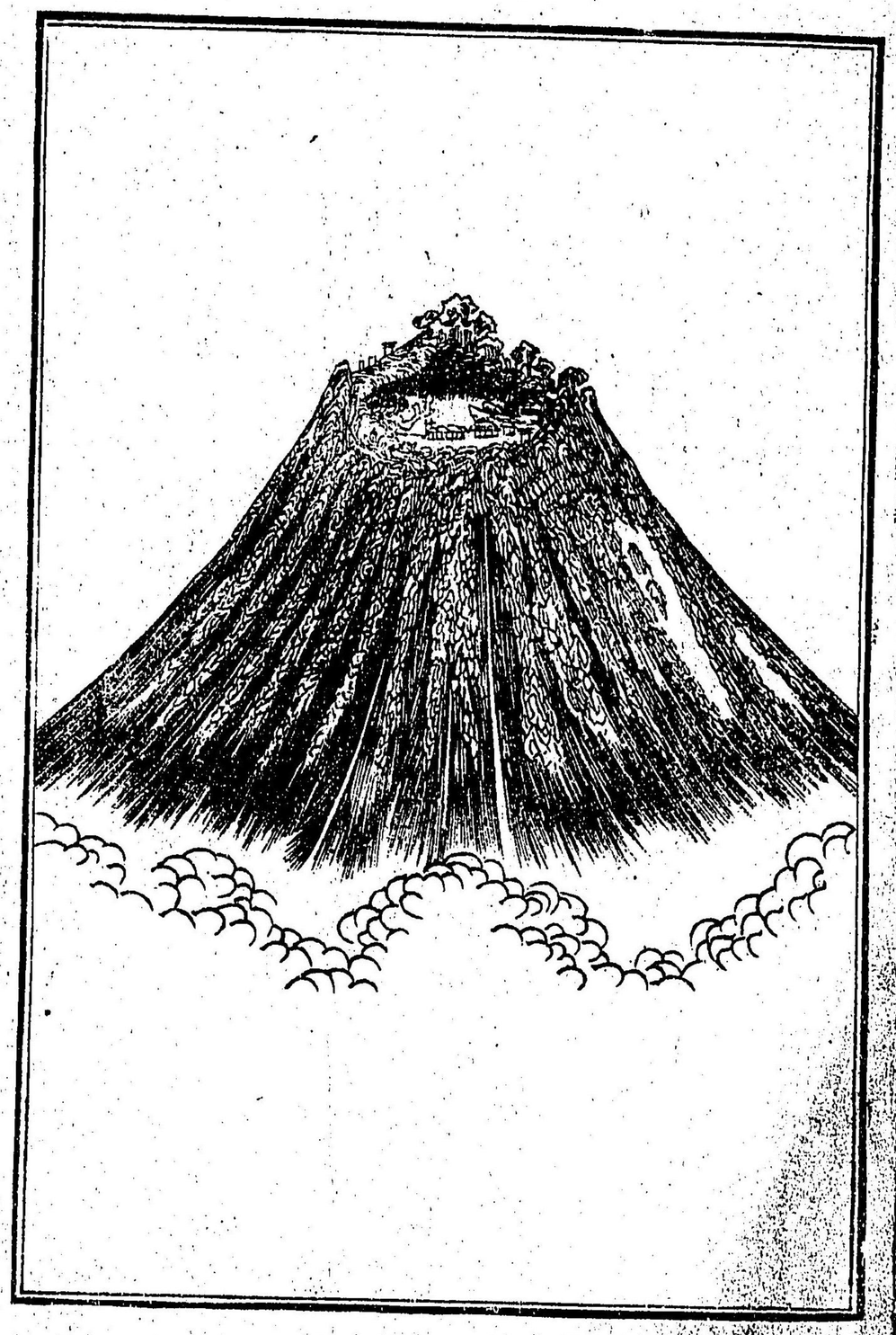
ABB-1002

特35
876
明治十年四月吉日

富士信導記

權少教正宍野半教會物語

■毎日拜する處の日月より外よ貴き神あるや●藤原武邦尊師角行の事より傳來する處の御身秡并元祖伊藤尊師身祿の事の一字不説の巻よ記載せる天祖天神ゑり



■天祖天神とは何なる神なるや●天御中主神なり

■何の所以ぞ以て天祖天神とは申さや●天地ぞ鎔造し給ひて八百萬神を産み其他草木の類に至るまで其御德ぞ以て生ぜしめ又人に魂ぞも賦與ち給ふ神なれば一字不説の巻に天照大

御神も木花之佐久夜毘賣命も川の鱗に至るまで皆悉く天祖天神の御子なりとある故思ひ辨知もべし

■人の総元祖は誰なるや●大原は神も人も皆天祖天神なり

■人ぞ此世に生れさせるは誰なるや●即ち人の魂ぞ賦與し給ふ處の天祖

天神ふり

■人の魂に賦與し給ふ大根本を何方ふるや●天祖天神の坐しまして安樂無窮の都天ふり

■都天とは何方ふるや●國土の上天ふり

■無窮安樂の都天より賦與し給ふ魂

ふれむ人の魂各其處に在るときは我々が魂も安樂に得る事叶ふや●酒に好む人の醉たる時の如く惡事に忘れ都天在中無窮の安樂に得る疑ひかかるべし

■魂の樂しみに蒙むる事ふらぞ肉身の如く魂に形體あるや●形體あり肉

眼を以て見難し

■都天より賦與し給ふ魂なれば其大根本たる都天より悉く還原するや

●在世中善事をなすは還原して無窮の安樂を蒙むり惡事をなすは還原を事能ぎして終より夜見に隨つ夜見と俗に謂ふ地獄なり

■都天に還原して無窮の安樂を蒙むらむと思ふべし何なる善事を盡してよきや●神理を守るべし

■神理とは何の事にて又幾許の箇条あるや●天祖天神の深恩と天壤無窮の神勅とを並べて須臾も忘れず寢起に伏拜し父母に孝養を盡し長上兄弟

に敬愛し夫婦睦しく家内に一和あ
子孫に思ひ應分の家業に勉め勵み人
と信義に以て交り國に愛する等概畧
如斯の箇条あり

■神理に背き惡事に赴せで都天に還
原して安樂に蒙むる事能ざるの其箇
条何程あるや●窃盗妄言淫亂等に始

め総て善事に反對する者を皆惡事に
して神理に背くの箇条ありされど大
小に係らず鬼神の大に憎む處あれ
ど輕重に依り夜見に隨ち或は無量の
痛苦に被る事あるべし

■一度惡事に赴せで改心をと雖も夜
見に隨つるや●天祖天神に篤く謝罪

して悔悟心を起せば積重の罪と雖も都天に還原して安樂を得るなり

■篤く謝罪とは何を何とかしてよきものや●悔悟心を起してより殊に神恩を忘れぞ誓て神理を守るべし

■律法を犯せし程の罪よりもあらざれども唯心に慚愧する程の事ある時を鬼神之を憎や憎まざるや●鬼神は人の目の及ばざる所に於て犯を却て大に忌嫌ふなりされば悔悟心を起せべし

■悔悟心とは何なる譯なるや●惡事を為したる事を自身より悟り之より惡事を為まじと心に誓ひ思ひ然して

高天能神祖神魯岐神魯美奇支靈乎幸波幣給幣と御神名を唱へつゝ祈念して其罪を消滅せゞ鬼神憎む處なし終に靈魂の都天還原を得るなり

■御直願と申も何の譯なるや●諸神へ別に願ひかゝゞる事にて譬へゞ役人へもの事を頼まゞ天子様へ直に願ひるの類にて即ち無上至尊の天祖天神へ直に願奉り我が願望を成就せしめ給ふんとする事を御直願又も蔭願せゞとも申もなり

■參の字を貴ぶ次第も何の譯なるや

●一を參を生じ參萬物を生ずと謂ふ

處より參の字は貴ぶなり

■參萬物は生ずるとも何ぞ物は指して申すや又た神は指したる事なるや

●造化の功德も參神より起つて天地世界のありとあらゆる萬物は化育なし給ふ故に天祖天神の神德は指して參萬物は生ずるとも申すなり

■天祖天神とも御一神なるや●天御中主神御一神なりと雖も高皇産靈神神皇産靈神の御神德は合體し給ひ然して此參神萬物は生しさせ給ふ故に參の字は重崇するなり

■萬物の春生ず夏長し秋收まりて冬藏るも參神の御所爲なるや●立春

に至れど誰の教ふるともなく黄鶯の
晛晥たるより六十日余ばかり經れど鴻雁
寒き所に歸り去り玄鳥は飛び来るの
類総べて春夏秋冬の時候に轉環あさ
め給ふこと皆天祖天神の神機なり

■天祖天神の貴きは藤原武邦尊師其
外元祖等の始めて知り給ふ處なるや

●往昔より聖人君子も此神の貴きを
知り給ひ何れも崇敬せられたりと雖
も人に廣く知らせて信心の道ば弘め
人の靈魂ば救ひむとおされしたまづ
藤原武邦尊師其他の元祖等ば始めと
なるかり

富士登山の縁

■富士登山を何故なる處なるや●藤原武邦尊師の天祖天神へ誓約し給ふ神教を我々も背かざるものなるより過つる若し罪を造らば我が靈魂を救ひ助け給ひ種々の困難を免かれさせ給へと願ふたるなり

■富士へ登山をする淺間大神小御嶽大神等の御助けを願ふなる非ぞや

●人の魂を淺間大神小御嶽大神等の賦與し給ふ處なる非ぞ即ち天祖天神より賦與し給ふ靈魂なれば其恩を報ひ奉らんとして藤原武邦尊師の神誓の跡を思ひ登山をする處なり

■淺間大神等を何故人の魂を賦與し

給まぞや●人の魂を即ち神ともかつて終る神通なも得べき貴重のものかる故る無上至尊の天祖天神おらでも賦與し難きものおれぞるり

■天祖天神を病氣等の全快を祈らぞ御助あるや●天祖天神を忝くも天地を鎔造し給ひて天地と共る萬物

の大主宰神おれぞ他念おく一心る祈らぞきをめて醫藥を助あ病氣を愈し給る事疑ひあるべからぞ

■天祖天神を女人の願ふ處の安産を助あ給ふや●生成を天祖天神の常る給ふ所おれぞ他念おく一心一向る祈らぞ醫藥を助あ安産おさしめ給ふ

素より疑ひあかるべし

■藥祇呑む唯神の御助あるかり願ふて也如何●神代の往昔大名持少名彦神ゑ天祖天神の命令して始め給ふ道あり然れど藥祇用ひ且神の御助あるを願ひ奉りて然るべきものあり

神靈と人魂のちがひ

■淺間大神等と何方より神靈を受あ給ふや●天祖天神の賦與し給ふ處あり

■淺間大神の神靈も天祖天神より賦與し給ふ處あれど人の魂も同じき位あるや●貴賤の差別ありて同じ位ゑ非ざるを同じ山より出る玉ゑも善惡

ある如くまて同日より語るべき者まあらぞ

■神より對ー家業ぞ先とー信心ぞ後より

ーてよきや●神の恩ぞ須臾も忘れぞ家業ぞ勉め勵むべー家業ぞ怠慢せぞ譬へ信心篤くともかみの教へより却て背くものぞり依て餘暇のそこーくあ

る時怠り忘れぞ冥福ぞ願ふべー

■冥福とも何ぞる事や●第一此世界ぞ無難より渉り死後よハ我が靈魂の無窮安樂ある都天より還原せんこと ぞ願ひ求むることなり

■死後より至り冥福ぞ得て安樂ある都天より還原せむと思ても何ぞかさぞ神

の寵愛に蒙むるや●神に縁に結ぶべ
し

■神に縁に結ぶもの何ある事なして
よきや●神誓に遂ぐべし

■神誓ハ何の益あるや●我が心益堅
くかりて信心怠ることなく終に冥福
に受るかり

■神誓を何方に於て執行あるや●教
會所に於て教長に願つて執行をべし

■富士山を何れの神の守護ふるや木
花之佐久夜毘賣命の御山にあらぞ
や●天祖天神の神勅に蒙むつて木花
之佐久夜毘賣命の守護に給ふ御山か
り

■木花之佐久夜毘賣命の守護の御山
なれど彼の御山に至り何故天祖天神
を信仰せるや●富士山を神仙の靈嶽
即ち諸神の集り給ふ處なれど殊に天
祖天神の愛嶽なる事を思ひ木花之佐
久夜毘賣命を御山の番衛神なる辨
知せべし

■遠路を經て富士登山し難きものを
如何して天祖天神に報恩を盡してよ
ろしきや●先祖棚に向ひ篤く天祖天
神を拜せべし

■神を先祖棚に祭りてよきや●神葬
祭なれど一緒に祭りてよし

■富士へ登山せざるも神棚に向ひ篤

く信仰せば登山せ〜ものも同様神の御助あるや●同様ゟ御助あり然れども教師たるものゟ武邦尊師の跡ゟ守り登岳せざんば元祖の本意ゟ背くべ〜

■木花之佐久夜毘賣命ゟ信仰して天祖天神の御祟ある〜や●御祟ゟ〜篤く信仰ゟべ〜

明治十年二月廿六日届

第二大區七小區飯倉狸穴町十七番之二番地
著述人　宍野半之進
第七大區一小區今里村四十二番地
出版人　川越房吉
第二大區七小區飯倉五町目三十番地
發兌人　森江佐七

此次巻ゟ附録〜て参明参第参鏡参申一一三元身禄心ゟ申ゟ譯柄ゟ出版仕候御求め被下度奉願上候